



市長から

新型コロナウイルス感染症については、東京、大阪などで非常事態宣言が発出され、感染者は減少傾向にあるものの、高リスクといわれる高齢者の感染者は増加しています。このような中、新型コロナウイルスのワクチン接種が開かれます。

国は優先的に接種する対象者を段階ごとに、まずは医療従事者、次に65歳以上の高齢者、その次に基礎疾患を有する人、高齢者施設などの従事者、その後、それ以外の人という順序で接種することとしています。

本市では、ワクチン接種を円滑に進めるため、2月1日付けでも・健康部健康づくり推進課内に「新型コロナ

ワクチン対策室」を新設しました。

この対策室は、邑久医師会など医療機関との調整や、接種体制の準備、市民への周知などの事務を担います。現在ワクチンの入荷時期などが不明確なこともあり、具体的なワクチン接種の日程はお示しできませんが、国、県との連絡調整を密にし、国のスケジュールが決まり次第、速やかにワクチン接種ができるよう準備をしていきます。

新たな子育て支援事業

子育て世代に選ばれるまちを目指して、子育て環境の充実と子育て世代の負担軽減を図るため、太陽のまち基金を活用し、これまで実施してきた不妊・不育治療の助成事業に加え、新たに出産後から満



子育て世代に選ばれるまちを目指して

2歳未満の乳幼児の保護者に対し、紙おむつや粉ミルクなどの育児用品購入費の一部を助成する「すくすくチャイルドサポート事業」や、低所得のひとり親に対し、放課後児童クラブ利用料の助成を行います。

また、これまで財源が大きな課題となっていた小児医療費公費負担についても、当基金を活用し、対象を中学校3年生から高校3年生までに拡充します。

さらに、近年増加している低年齢児の保育需要に対応するため、民間のこども園を誘致することとしています。

防災情報伝達システムの整備状況

防災情報伝達システム整備事業については、現在本市の地形などの現状を調査しながら詳細設計を実施しており、市内数十カ所に設置する予定の高性能スピーカーの放送テストを実施し、音声到達範囲などの確認を行っています。



現在の防災行政無線スピーカー

高性能スピーカーは、音声の到達範囲が拡大されるだけでなく、均一で明瞭な音を伝えることが可能で、近くでも遠くでもはっきりと聞き取ることができます。この高性能スピーカーを配置することで、屋外における情報伝達は改善されますが、これにより、屋内を含め市内全域をカバーできるわけではありません。

新たな防災情報伝達システムを整備していく中で、携帯電話、テレビ・ラジオ、防災アプリ、インターネット、戸別受信機など、市民の皆さんが多様な手段で防災情報を入力できるよう、ハード面の整備だけでなく、ソフト面の整備も併せて研究していきたいと考えています。

JR赤穂線ダイヤ改正への対応

昨年12月18日にJR西日本

岡山支社が、3月13日付けの春のダイヤ改正において、「乗客の利用状況に合わせて運転区間を見直す」として、10時から15時台までの西大寺駅から長船駅間の上下便を、それぞれ1時間当たり2便から1便に減便する旨を発表しました。

本市にとって、市民の通勤・通学などにかげがえのない存在であることから、同じく減便対象となった山陽本線沿線の岡山市、赤磐市、和気町および備前市の4市1町で連携して、JR西日本岡山支社に再考の要望を行いました。

運行本数の減少による利便性の低下が更なる乗客離れにつながるという悪循環にならないよう、今後も公共交通事業者や関係自治体とも連携し、利用客の増加対策に取り組んでいきます。

高齢者補聴器助成事業

加齢に伴う聴力の低下は、治療などによる改善が難しく、このことが要因となり社

会参加への意欲が減退する傾向にあります。社会との関わりが減ることによって脳への刺激が減少することから、認知傾向になる可能性も指摘されています。

国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校の児童生徒への1人1台のタブレット型パソコンの配備を3月中旬に完了するよう進めています。

教育長から

邑久スポーツ公園の改修工事

11月28日に邑久スポーツ公園の冒険の森の整備を進めるためのワークショップを開催し、子どもを含む多くの市民の皆さんと意見交換や現地視察を行いました。

このワークショップで出た意見を生かした施設の実現に向け、準備を進めています。

また、野球場のトイレについては、既存のトイレの近くに新たに整備し、既存のトイ

用語の解説・備考

フレイル（虚弱）
加齢に伴い、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと